

令和6年度

パピーナ南荻窪保育園 すくわくプログラム

テーマ：かたち・かず・ことば・巧緻性

活動 巧緻性

「上」「下」「隣」を理解する

環境をデザインする

●準備した物 ひも通しプレート、ひも

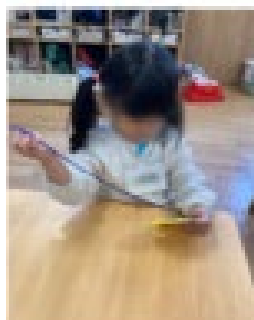
探究活動を実践する

●活動内容

いろいろなひも通しを楽しむ

●子どもたちの様子

プレートを見せると、動物名や色を元気よく確認し、その動物の形を見て「かわいい」と反応した。またプレートに穴が開いていることに気がつき「あ、ひもがついている1」と興味深そうに見て、「長いひも」と言葉にする姿がみられた。ひも通しのやり方を見せたところ「やったことある」「やったことない」とそれぞれの経験を口にする子ども達は「やりたい」との声があがり、好きな色や形でやりたいという希望を伝える子もいた。「くまさんには暖かい靴下を作ってあげて」「あひるさんには帽子を作ってあげて」というと、「靴下を作ったよ」「帽子を作ってあげた」と紐を通した動物を見せながら話してくれた。



振り返りをふまえた気づき

講師より：「難しい」と感じる子もいたが、励まされることで「やってみよう！」という気持ち生まれ、徐々に集中して取り組んでいた。体験を積み重ねることで、挑戦する姿勢が育っていることがわかる。また紐を通した動物を友達や先生に見せたり、「できた」と言う姿から、達成感や喜びを共有することの楽しさを感じていることがわかる。親しみやすい動物の形が想像力を高め、初めてでも気持ちが入り、ひも通しに挑戦しやすかったことも、積極的な取り組みにつながったと考えられる。

担任より：紐通しのプレートを見ると楽しそうという気持ちを持つ子が多かった。講師の先生の説明は、みんなよく聞いていたが実際にやるのは難しい子もいた。上下や隣を気にせずに紐を通してしまおう子とちゃんとできていないことに気づきやり直す子と差があった。一人一人そばで教えることで、やり方を理解しできる子もいた。紐通し自体は、楽しんで取り組んでいた。難しかったり、上手くできなかつたりしても集中して最後まで行うことができ、成長を感じた。

令和6年度

パピーナ南荻窪保育園 すくわくプログラム

テーマ：かたち・かず・ことば

活動 かたち

形の違いを理解する

環境をデザインする

- 準備した物 プリント、クレヨン

探究活動を実践する

●活動内容

それぞれの形の特徴に気をつけて描く

形の同じ仲間に気づき、描いたり数えたりする

●子どもたちの様子

「何に見えるかな？」と聞くと、「お城」と大きな声で答えてくれた。楕円を見つけると「これも丸だよ」と友達や先生に話す子どももいた。クレヨンが線からはずれてしまったことを「（上手に）できない」と気にしている子もいたが、「はずれても大丈夫だよ」を伝えると、その後自信を持ってどんどん描き進めていく様子がみられた。形をなぞっているうちに「丸が7つある」と発言があった。それに続いて自分達で数え始めた。また、「三角はいくつあるかな？」と聞くと「たくさんある」と丸の数と比較する声があがった。



振り返りをふまえた気づき

講師より：丸、三角、四角の形をなぞるうちに、それぞれの違いや数に気づき、自然と数量の概念に触れながら、考える力が育っていることがわかる。また形を丁寧に描き、間違えても次に進み、最後まで完成させたことは、最後までやり遂げることの大切さを学ぶ機会になったと考えられる。

担任より：○△□の描き方を教えてもらった。講師の話聞きながら「前にもやったことあるよ」と言い、見通しを持って参加していた。空間で図形をなぞり、大きい□や小さい□もそれぞれ大きさの違いを感じてなぞった。図形が組み合わされたプリントをもらい、その中から○△□を見つけてなぞっていく活動を行った。教えてもらった描き方と、姿勢を意識しながら集中して取り組んでいた。□の中に細長いものもあり、「これも□？」と講師に確認しながら進んでいた。活動の見通しを持っていない児は、先読みでクレヨンを持って行動しようとする姿があったが、講師から「今は終わったらクレヨン置くまでだよ」と声をかけられると、ハッと気付いてクレヨンを置いて待つことができた。

パピーナ南荻窪保育園 すくわくプログラム

テーマ：かたち・かず・ことば

活動 かず

数量の理解を深める

環境をデザインする

●準備した物

探究活動を実践する

●活動内容

数を理解し、順序、並び方をみつける

●子どもたちの様子

手拍子を一緒にしているうちに手拍子を止めても子ども達だけで続いていた。その様子を見て「なぜ続きがわかるの?」と聞くと「真似したから」「続き」「繰り返し」などの言葉が出てきた。「なにか繰り返し並んでいるものはあるかな?」と聞くと、最初はなかなか出てこなかったが、「しまうま」の発言をきっかけに、「お当番」「月(1月~12月)」「時計」「朝昼夜」などと次々と例が出てきた。「自分の縞のTシャツも繰り返しだ」と言うと「〇〇ちゃんのも」と、お友達の服装から縞模様を見つけていた。なぞなぞ形式で「信号機の繰り返し」を聞くと「赤青赤青で繰り返し」と元気よく答え、その発見が楽しそうだった。「タイヤ」や「扇風機」などの回転するものも繰り返しと気づいた。



振り返りをふまえた気づき

講師より：繰り返しの概念を自分の経験や身近なものに気づき、さまざまな視点で考えていた。子どもたちは、友達と意見を交換しながら新しい発見を楽しむ姿が見られ、主体的に学ぶ姿勢が育まれていることがわかる。

担任より：赤・赤・青など、講師が色のカードを規則的な順番に並べていき、その後に何色が続くのかを考えさせた。目で見て判断している時には、子どもたちも容易に予測がついていた。身近なもので、同じように規則的なものはあるか探してみると、時計やカレンダー、ボーダー柄のシャツなどあがったが、回転するもの＝規則的な物と結び付ける子もあり、中にはネジや歯車と答える子もいたり、視覚では規則的なものを理解しているが、身近なものとして探すには理解が難しい子もいた。ノートを使って、規則的な順番のものを見つけるワークでは、並びを理解して探す子が多かった。また、自分の名前を決められた枠内に書くワークでは、限られた枠の大きさに対して文字の大きさを考えることはまだ難しい子が多く、大きく書きすぎたり苗字と名前を繋げて書く子がほとんどだった。苗字と名前の間にスペースがある方が読みやすいという講師の言葉を聞いて、2度目は字の大きさやスペースを意識する姿があった。